

### 笑顔が溢れる 江戸川ウォーク 基礎ゼミの仲間がひとつに

4月25日、恒例の「江戸川ウォーク」が野田市清水公園で開催された。例年なら江戸川沿いを1時間半程歩いたあとバーベキューとなるが、今年は歩き始める集合場所の河川敷が使えずバーベキューのみだった。だが、全学部の新1年生総勢639人の“笑顔”が例年にも増して溢れていた。大学生活初めての共同作業をぞんぶんに楽しんだ一日だった。(取材・撮影：池谷明日香 撮影：日高那侑)



3



1



4



2



5

1. いざ！火おこし。やる気満々（こどもコミュニケーション学科村上ゼミ）。2. 学長の開会宣言でバーベキューがスタート。3. 男子が協力し、さっそく火をおこすことができた（マスコミ学科林ゼミ）。4. 女子も協力し、肉、野菜などを焼きはじめた（こどもコミュニケーション学科我謝ゼミ）。5. 留学生（左）もバーベキューを楽しんだ。普段はなかなかコミュニケーションがとりにくいが、江戸川ウォークでは一緒に笑いあい、楽しい時間を共有できた（マスコミ学科清水ゼミ）。

晴れ渡る青空、朝から天候に恵まれ「バーベキュー日和」となった。昨年と比べ100人近く1年生が多い。清水公園駅は江戸川大学生で溢れかえっていた。駅から集合場所の第3駐車場まで同じ基礎ゼミの仲間と話をしながら歩く。初めて話をする学生もいる。バーベキューが始まる前から仲間意識が高まっていく。第3駐車場までの道のりは、想像以上に遠く着いた頃には体が温まった。学長は、「一、4年間徹底的に大学生活を楽しむ」「二、徹底的に勉強する」

「三、バーベキューを徹底的に楽しむ」と開会を宣言。さっそくバーベキュー場に移動し、バーベキューを開始した。普段の生活で炉を使うことなどない。火おこしは、どの基礎ゼミにとっても大変な作業だ。マス・コミュニケーション学科1年の勝沼晶子さんは「炭に火が広がらなくて大変。お腹が空いたので焦ってしまった。なかなか火がおこせず、悪戦苦闘しながら仲間と協力しあった。火がつくまでの緊張した表情も、炭がおこるとともに、柔らかな

バーベキューで一気にご生間の距離が縮まり、基礎ゼミの仲間との結束力も強まった。清水公園駅への帰り道でも笑顔が絶えることがなかった。

と語った。親として、とても嬉しい」と語った。学長は、「今年は歩くことが出来なくて本当に残念だったが、学生たちが和気あいあいとして食べていて、江戸川ファミリーの父親として、とても嬉しい」と語った。

「三、バーベキューを徹底的に楽しむ」と開会を宣言。さっそくバーベキュー場に移動し、バーベキューを開始した。普段の生活で炉を使うことなどない。火おこしは、どの基礎ゼミにとっても大変な作業だ。マス・コミュニケーション学科1年の勝沼晶子さんは「炭に火が広がらなくて大変。お腹が空いたので焦ってしまった。なかなか火がおこせず、悪戦苦闘しながら仲間と協力しあった。火がつくまでの緊張した表情も、炭がおこるとともに、柔らかな間にさら笑い話だ。最後にマッシュマロを焼き、片付けを終えたゼミから解散となった。学長は、「今年は歩くことが出来なくて本当に残念だったが、学生たちが和気あいあいとして食べていて、江戸川ファミリーの父親として、とても嬉しい」と語った。

「三、バーベキューを徹底的に楽しむ」と開会を宣言。さっそくバーベキュー場に移動し、バーベキューを開始した。普段の生活で炉を使うことなどない。火おこしは、どの基礎ゼミにとっても大変な作業だ。マス・コミュニケーション学科1年の勝沼晶子さんは「炭に火が広がらなくて大変。お腹が空いたので焦ってしまった。なかなか火がおこせず、悪戦苦闘しながら仲間と協力しあった。火がつくまでの緊張した表情も、炭がおこるとともに、柔らかな間にさら笑い話だ。最後にマッシュマロを焼き、片付けを終えたゼミから解散となった。学長は、「今年は歩くことが出来なくて本当に残念だったが、学生たちが和気あいあいとして食べていて、江戸川ファミリーの父親として、とても嬉しい」と語った。